

女性自らの力でエンパワーメントの実現を

アストリ・ヒダイティ（インドネシア）

アニンディア・クリスティアナ（通称ニンディ）さんは、東ジャワ州スラバヤ市にあるペトラ・キリスト教大学のビジュアル・コミュニケーション学部の講師を務めています。30歳のニンディさんはアイルランガ大学の出身で、大学ではメディア・コミュニケーション学を専攻しました。現在は大学講師として、講義や学術研究を中心とした仕事をしています。

昔からインドネシアでは、エンパワーメントという点で女性が端の方に追いやられてきましたが、その状況が今も変わっていないことをニンディさんは実感していました。インドネシア中央統計庁が2016年に発表した「女性の暴力の経験に係る調査」の結果によると、国内の女性の30%以上が経済的・社会的・性的な虐待のいずれかに苦しんでいるということです。

ニンディさん自身、女性のエンパワーメントに対して熱意を抱いており、また学術機関に所属していることもあって、どのような取り組みが必要かということに関して幅広い視野と見識を持っています。彼女には、女性のエンパワーメントとは社会と国を強くすることなのだという持論があります。そこで彼女は多くの人や団体の力を借りて、エンパワーメントのための活動を始めました。そのプログラムの内容は、主に女性と子どものエンパワーメントや創造性を養うことに重点を置いたもので、人口の多い近隣地域を中心に実施されました。参加した女性の大半は、あまり高い教育を受けてない人たちです。

女性のエンパワーメントの実現を目指す場合、同時に取り組まなければならないのが子どもの問題、とりわけ子どもを持つ女性の問題です。ニンディさんはスラバヤ市内の海沿い地域（北スラバヤ）の女性や子どもたちの状況を例に挙げ、栄養や子どもの健康に関する知識がいまだに十分ではなく、病気や障害さえも引き起こしかねない神話を信仰する傾向があると言います。

ニンディさんは、売春街として栄えたドリー地域を活性化するために、バティック（ろうけつ染め布地の特産品）の小規模事業主のエンパワーメントに取り組んでいます。バティックの従事者はほとんどが女性ですが、職業訓練をすることで、その地域独特のモチーフを生み出せるようにしています。バティック美術やデザインの知識が、結果としてバティックに従事する人たちの収入を増やすことになるのです。

アートデザイナーとして、ニンディさんは保育やサービスの地域活動家に子どもの教育における美術や創造することの大切さを教えようとしています。そのためにスラバヤ市内の地域活動家に保育やサービスのトレーニングを行い、医療や教育の社会化を目的とした教材を作成しています。その一環として、ニンディさんは古新聞やびんなどの資源ごみのリサイクルについても教えました。

子どもや10代の若者を対象とした活動では、夫と協力し、スラバヤ市内のシドダティにカンポンラマアナク（子どもに優しい村）を設立しました。このプロジェクトでは、ニンディさんは絵画の製作やダンスセンターの設立に関わりました。10代の若者に対しては、学校や教会などに壁画を描くよう促します。ある調査によると、このような壁画によって潜在的なメッセージが伝達されることがわかりました。このようなニンディさんの活動から学ぶべき点は、女性のエンパワーメントとジェンダー平等を、私たちの誰もが常に真剣に向き合わなければならない問題として捉えるということです。女性は経済や社会に貢献し、重要な役割を果たしています。そのことを考えても、文化的背景から生じる偏った信念に基づいて女性を周縁化することは、社会や国の活性化にはつながりません。インドネシアにおいて、いわゆる女性のエンパワーメントに向けた

取り組みには 100 年以上の歴史があります。近代では、インドネシアの独立を勝ち取るために戦った英雄たちの多くが女性です。彼女たちは銃などの武器を手で戦っただけでなく、女性に対して読み方を教え、組織をつくり自分たちの意見を主張できるように指導することで、その内なる力を引き出しエンパワーメントを進め、戦いを勝利に導いたのです。インドネシアでは、ラーデン・アジェング・カルティニ、デウィ・サルティカ、チュ・ニャ・ディン、マーサ・クリスティーナ・チアハホウをはじめとする多くの女性が、英雄として歴史に名を残しています。

ニンディさんは自らの時間とスキルを活用して、女性のエンパワーメントの一翼を担っています。大学で学術的な仕事を精力的にこなしつつ、女性のエンパワーメントの問題にも取り組んでいるニンディさんの姿からは、いかに女性が同時に複数の役割を果たす能力を兼ね備えているかを思い知らされます。実際、世の女性の大半は、複数の役割を同時にこなしているのです。

女性のエンパワーメントは、女性たちが自身の強みを生かすことに思い切って挑戦してこそ達成できるものです。女性は自らの能力を高めることができ、本来それを可能にする強さが備わっているのだと信じるのが、エンパワーメントの実現には大切なのです。



教材の作り方を指導するニンディさん
(ニンディさんのフェイスブックより引用)